

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学生活動支援機構 支援機構	担当部局：学長室・教務機構・学生活動支援機構(総合支援センター)・学生活動支援機構
大項目	8 学生支援 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	8.0.1 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。【担当部局：学長室】	
要素	学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化	
小項目	8.0.2 学生への修学支援は適切に行われているか。	
要素	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性【担当部局：学長室】	
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施【担当部局：教務機構】	
	障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性【担当部局：総合支援センター】	
	奨学金等の経済的支援措置の適切性【担当部局：学生活動支援機構】	
小項目	8.0.3 学生の生活支援は適切に行われているか。【担当部局：学生活動支援機構】	
要素	心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮	
	ハラスメント防止のための措置	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「オンリーワン」の学生を育てるために、効果的で総合的な学生支援を押し進める体制を整備する。	→学生支援に関する全学的な方針を定める。	C	B	B	B	B
2. 休・退学者の状況を把握し、退学率を抑制・低減する。	→退学率2%未満を保持する。	B	B	B	B	B
3. 障がいをもつ学生に対して総合的な支援を行う体制を整備する。	→キャンパス自立支援課と学生支援センターの統括	C	A	A	A	A
4. キャンパス・ハラスメント防止に関する研究会を、各組織がそれぞれ最低5年間に1回は開催する(2010年4月段階で、11学部及び併設の研究科、2つの専門職大学院、1つの独立研究科 合計14組織)。	→各組織の研究会開催状況(開催件数)。5年間に最低1回はキャンパス・ハラスメントの講演会を開催する。	B	B	B	B	B
5. 体育館を利用する課外活動団体の活動を強化する。	→総合体育館を使用する課外活動団体8団体(バスケットボール部、バレーボール部、ハンドボール部、バドミントン部、レスリング部、フェンシング部、卓球部、器械体操部)に対して、年間951時間20分の使用時間増を実現する。	B	A	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
6. 2013年度入学者を対象とした入学前予約型奨学金制度を実施する。	→実施の有無			B	A	A
7. 2013年度より、現行支給奨学金制度の募集時期を変更する。	→実施の有無			B	A	A
8. 2013年度より、緊急時貸与奨学金制度を実施する。	→実施の有無			B	A	A

☆

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年度から実験的に「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出-国公立4大学IRネットワーク」(北大、府大、同志社、甲南)に参加。その後2012年には大学IRコンソーシアム発足と同時に参加し、平成24年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質保証」に採択された。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 当初は本学の4学部が試験的に参加している程度であったが、その後2013年には全学部が調査に参加し、収集したデータはその成果を利用可能なファイルとして各部に提供することができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か アクティブラーニングや、グローバル化といったキーワードから、調査項目も変更し、学生調査をより使いこなせるようにしていく必要がある。</p> <p>その他</p>	☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 退学率2%未満の保持という指標は達成できている。また成績不振に伴う学修意欲の低下を防ぐため、また長期欠席者の早期対応のために、基礎演習や演習(ゼミ)担当者、副学部長を中心に状況把握し、面談指導を学部単位で行ってきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 退学率は継続して2%未満であった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 継続して、各学部において、学生に対するケアを行い、退学率の上昇を防ぐ。</p> <p>その他</p>	☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか こころや身体に困難を抱える学生を総合的に支援するため、2011年度から「教務部キャンパス自立支援課」と「学生部学生支援センター」を事務統合し、「総合支援センター」としてスタートした。「総合支援センター」は障がいのある学生を支援する「キャンパス自立支援室」と様々な悩みの相談に対応する「学生支援相談室」を設けている。また、2013年度からは学生活動支援機構総合支援センターとして組織を改組しスタートしている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 事務統合により「キャンパス自立支援室」と「学生支援相談室」の連携が円滑に行われるようになり、発達障がいのある学生やその傾向にある学生に対する相談や支援に効果が上がってきている。また、学生活動支援機構としての改組によって全学的視野での連携協力が一層強化されている。しかし、精神障害のある学生についての対応と支援について、学内連携を含めた支援体制の整備が今後の課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 障がい学生支援に関し、2013年6月に国会で承認された障害者差別解消法(通称)や文部科学省の検討会報告等に明記されている合理的配慮に基づく指針(ガイドライン)が文部科学省から示される予定である。これを睨みながら、本学の指針(ガイドライン)を作成し、全学で共有する。また、学生数の増加が著しい発達障がい・精神障がいのある学生支援は、現在の人員や組織体制では限界を超えており、そのため新たな組織や人員配置を提言する。</p> <p>その他</p>	☆

目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部・研究科に対して講演会講師料補助制度を周知している。また、研修資料を提供している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学部・研究科における部署独自のキャンパスハラスメント研修件数、2009・2010年度合計4件、2011年度5件、2012年度は3件(相談員対象2件を含む)、2013年度は3件(相談員対象1件、人権問題後援会1回を含む)であった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部・研究科に対して補助制度情報、研修資料の提供を続ける。人事部と共催の研修会を実施する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標5	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学生部と事務統合を行い(スポーツ・文化課の創設)、専任職員数を削減、その分を体育館勤務の警備員の勤務時間延長に充てることで、開館時間の延長を可能とした。また、使用時間延長に際しては各部に対して安全上の配慮、帰宅時間が遅くなることで考えられるデメリット等の解消について強く要請した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 目標時間を遥かに超える約4,000時間の時間増となった(2009年度比)。その結果、部員数の増加による練習場所の狭隘化等に対応できた。また、戦績の上昇にも一役を買っている。使用上のトラブルもほとんど聞かなくなったことから、大きな問題は起こっていないと考えられる。この時間増による課題・改善点は特にない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年度には体育館の大改修を予定している。現在、練習場所をもっていない競技団体に対して、体育館内で練習・試合ができるように、あるいは更なる活動時間増を可能ならしめるように、新たな管理体制を検討する。その一方で安全対策、特に熱中症対策等についても検討する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標6	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度から新たに、入学前予約型のランパス支給奨学金制度を実施している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 関西学院大学での勉学を強く希望するが、経済的に進学を躊躇していた優秀な学生を確保することにつながっている。学生にとって条件付きではあるが4年間の支給が約束されているので大きな動機付けとなっている。2014年度に初めての継続を行ったが40人中26人しか成績基準を満たさなかった。成績維持・向上を動機付けることが課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 優秀な学生の獲得につながる制度として定着するよう継続して推進する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標7	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度から就学奨励奨学金と経済支援奨学金を10月募集としている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 10月採用とすることで、1年生の春学期成績を使えることになり、大学に入ってから成績での判定が可能である。春学期から掲示をすることにより、申請忘れがなくなった。1回交付となり、2回交付のときにはあった2回目の申請忘れがなくなった。また事務作業量の削減にもつながっている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 成績優秀で、学費の援助を必要とするもの、極めて家計困窮度が高いものを救うための関西学院大学が行う奨学金制度として継続する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆

目標8	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度から緊急時貸与奨学金制度を実施している。2013年度には9名、368.6万円の奨学金貸与を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 以前の同趣旨の特別貸与奨学金に比べて、日本学生支援機構奨学生であることを条件にしていること、学生課で受け付けることから統一した基準で奨学金を交付することができている。日本学生支援機構の緊急採用・応急採用奨学金との使い分けが課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 家計急変時に修学を継続するための最後のセーフティネットとして継続していく。	☆
		その他	☆
		備考	☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

		単位	2009	2010	2011	2012	2013	備考	
指標1	在籍学生一人あたりの奨学金金額	支給	円	35,968	34,705	36,251	42,545	42,530	支給奨学金総額÷在籍学生数
		貸与	円	262,927	276,225	283,781	281,690	277,598	貸与奨学金総額÷在籍学生数
指標2	奨学金採択率	支給	%	9.9	10.0	10.2	11.3	11.2	支給奨学金採択者数÷在籍学生数
		貸与	%	34.7	35.2	36.0	36.4	35.5	貸与奨学金採択者数÷在籍学生数
指標3	奨学金受給者一人あたりの額	支給	円	363,566	346,311	354,728	376,516	379,430	支給奨学金総額÷支給奨学金受給者数
		貸与	円	758,307	785,761	787,615	773,571	782,222	貸与奨学金総額÷貸与奨学金受給者数
指標4	学生支援相談室の利用者数	人	2,018	2,432	2,752	3,072	3,543	利用者数は延数	
指標5	退学者比率	%	1.38	1.29%	1.40	1.28		当該年度退学者数÷当該年度在籍学生数(5/1現在)	
指標6	学生生活の充実度	%	-	89.2	-	87.5	-	「非常に充実している」「かなり充実している」「まあまあ充実している」「あまり充実していない」「全然充実していない」のうち「非常に充実している+かなり充実している+まあまあ充実している」とする。(CCA調査 2年に1度実施)	
指標7	学生会公認団体/自治会傘下団体の構成員比率	%	21.91	21.15	21.35	20.26	21.03	(学生会公認団体構成員数+自治会傘下団体構成員数)÷在籍学生数	

注) 奨学金は学内および学外を合計した金額とし、指標1~4は学部生、大学院生、専門職大学院生を対象とし、指標5~6については学部生を対象とする。

注) 指標4は、西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパスの利用者の合計とする。

注) 指標7について、学部生を対象とし、学生会公認団体は6総部(体育会、文化総部、応援団総部、新聞総部、総部放送局、宗教総部)、自治会傘下団体は法学部自治会、商学部商学会研究会委員会とする。母数となる在籍学生数は5月1日現在の数字。

注) 指標6では2011年度進捗状況報告より、2006年に遡って『CCA調査Q1. 大学生生活の充実度』のデータを採用。これまでデータとして使用してきた私大連「学生生活実態調査」が4年おきにしか実施されず、またその調査からの関学生のデータ抽出を取りやめたため。